

福津市 防災マップ

保存版

2024年(令和6年)版



福津市防災マップには、水防法等に基づく危険区域図や、さまざまな防災情報を掲載しています。
自然災害はいつ、どこに起きるかわかりません。
まずは、この防災マップで、身近にある危険な場所を把握し、避難や備蓄について検討してください。
また、日頃から地域の活動に参加して、災害時に助け合えるご近所づくりをお願いします。

わが家の防災メモ

自宅の災害リスク

大雨・洪水	土砂災害	津波	高潮	地震
☐ あり ☐ なし	☐ あり ☐ なし	☐ あり ☐ なし	☐ あり ☐ なし	☐ あり ☐ なし

避難の場所

家族の集合場所

非常持出品の置き場所

緊急時の連絡先

氏名	電話番号(学校、勤務先など)	特記メモ

避難情報
情報伝達の経路

大雨・洪水

土砂災害

高潮

津波

マイ・タイムライン

避難のポイント

地域での備え

防災対策と
非常持出品

地震

火災

防災情報
の
入手先

避難所
一覧

防災マップ

目次

● 防災マップの使い方	1	● 家庭での備え	14~15
● 避難情報	2	● 地震	16~17
● 情報伝達の経路	3	● 火災	18
● 大雨・洪水	4~5	● 防災情報の入手先	19
● 土砂災害	6~7	● 避難所一覧	20~21
● 高潮	8	● 索引図	22
● 津波	9	● 防災マップの見方	23
● マイ・タイムライン	10~11	● 防災マップ[各地域]	24~39
● 避難のポイント	12	● 防災マップ[高潮]	40~41
● 地域での備え(自主防災組織)	13	● 防災に関する知識	裏表紙



防災マップの使い方

- 見やすい場所に置き、常に確認できるようにしてください。
- 表示してある危険箇所は、土砂災害や浸水被害が発生する可能性がある場所です。自宅周辺の危険箇所を確認しましょう。

- 1 自宅周辺の「危険箇所」を確認しましょう。
- 2 自宅周辺の「最寄りの避難所」を確認しましょう。
- 3 非常時持出品を確認しましょう。
- 4 防災情報を確認しましょう。



まち歩きで事前のチェック

海や川が近い、がけが近い、住宅が密集している、自宅や周囲の建物が老朽化しているなど、地域の条件や状況によって警戒するポイントは異なります。

防災マップを持って「まち歩き」をし、各地域に想定されている災害リスクを事前に確認し、具体的な対策を話し合っておきましょう。



オリジナルマップの作成

家族で話し合ったことなどもふまえ、自宅から指定避難所や親戚・知人の家などの避難場所までの経路や危険な場所などを記載したオリジナルマップを作成し、家族で共有しましょう。

- 避難場所
災害が起きたときの避難場所をチェックしましょう。
- 危険な場所
川の近くなど、洪水時に危険となるような場所には印をつけておいて、その道は通らないようにしましょう。
- 目印となる場所
避難経路上で目印となる場所を書き込みましょう。特に曲がり角には分かりやすい目印を書き込みましょう。
- 避難経路
避難場所までの経路を書き込みましょう。
- 自宅
あなたの自宅を書き込みましょう。





避難情報

避難情報は警戒レベルでお知らせします

市は、気象庁や県の発表する防災気象情報と市内の状況を精査し、避難情報を発令し、避難所を開設します（防災行政無線や緊急速報メール、市のホームページ等でお知らせします）。災害の危険性は地域で異なりますので、近くにがけ崩れや浸水等の危険な場所がないかを、あらかじめ確認しておいてください。

また、気象情報をテレビやインターネット等で日頃から確認し、市が避難情報を発令した時には、ただちに行動できるよう、ご準備をお願いします。

気象状況	気象庁等の情報			市の避難情報		みなさんがとるべき行動	警戒レベル	
数十年に一度の大雨	大雨特別警報	キキクル 災害切迫		氾濫発生情報	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	命の危険 直ちに安全確保! ●すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	5	
		<警戒レベル4までに必ず避難!>						
↑	土砂災害警戒情報	高潮警戒情報	高潮特別警報	危険	氾濫危険情報	避難指示	危険な場所から全員避難 ●台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	4
大雨の数時間前	※大雨警報 洪水警報	高潮警戒に切り替える可能性が高い 注意報		警戒	氾濫警戒情報	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 ●高齢者等以外の人にも必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	3
↑	大雨警戒に切り替える可能性が高い 注意報	高潮注意報		注意	氾濫注意情報		自らの避難行動を確認 ●防災マップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	2
大雨の1日前	大雨注意報 洪水注意報							
↑	早期注意情報 (警報級の可能性)			災害への心構えを高める			1	

※夜間～翌日早朝に大雨警報（土砂災害）に切り替える可能性が高い注意報は、警戒レベル3（高齢者等避難）に相当します。

〔避難情報に関するガイドライン〕(内閣府)に基づき気象庁において作成(一部改変)

避難情報が発令されていなくても身の危険を感じる時は、より安全な場所で過ごしてください。

「3つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅に留まり安全を確保することも可能です

① 家屋倒壊等氾濫想定区域（P22をご覧ください）に入っていない（入っていると…）

流速が速いため、木造家屋は倒壊するおそれがあります。

地面が削られ家屋は建物ごと崩落するおそれがあります。

② 浸水する深さより高いところにいる

5m～10m未満 (3階床上浸水～4階軒下浸水)
3m～5m未満 (2階床上～軒下浸水)
0.5m～3m未満 (1階床上～軒下浸水)
0.5m未満 (1階床下浸水)

③ 水がひくまで我慢でき、水・食糧などの備えが十分（十分じゃないと…）

水、食糧、薬等の確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレ等の使用ができなくなるおそれがあります。

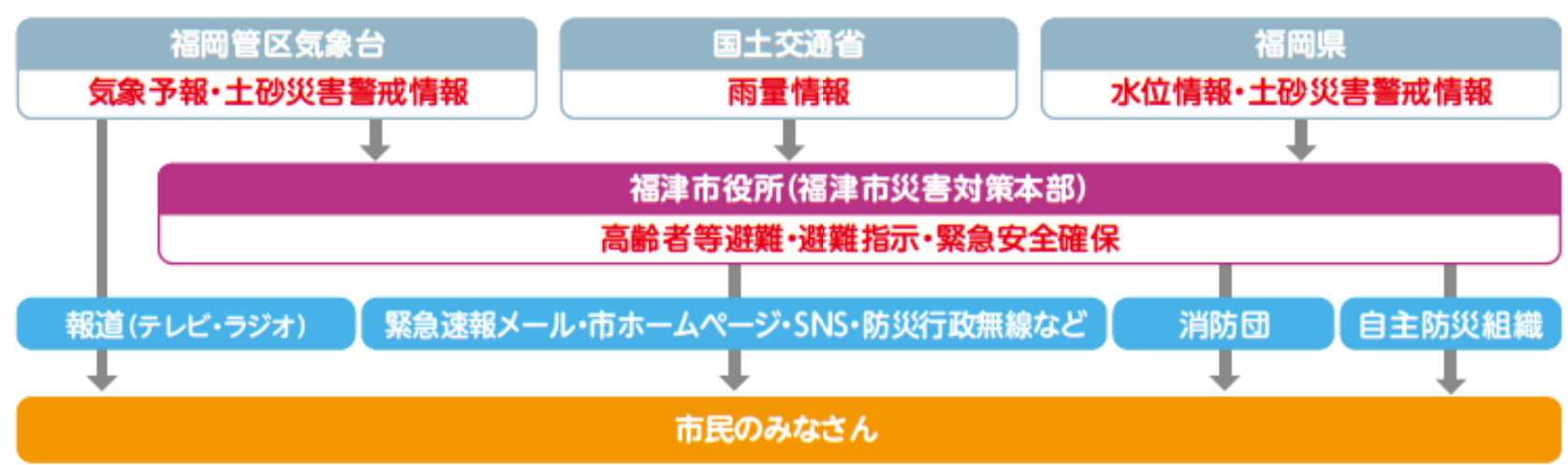
豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊する場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認してください。

出典:内閣府「防災情報のページ:新たな避難情報に関するポスター・チラシ」を編集作成



情報伝達の経路

市では、災害発生のおそれのあるときや、災害の発生が確実なときには災害対策本部等を設置し、災害発生の危険が高まり、避難が必要となる場合には、避難情報を発令します。内容と周囲の状況に注意して行動しましょう。



緊急速報メール 「緊急速報メール」により、緊急情報を配信します。

- 市では、災害時の緊急情報をより多くの人にお伝えするため、市内にいる人の携帯電話へ「緊急速報メール」を配信します。
- 「緊急速報メール」とは、避難指示などの緊急情報を市内にいる人の携帯電話（NTT ドコモ、au、ソフトバンク、楽天モバイル）へ一斉にメールを配信するものです。
※機種により「緊急速報メール」を受信できない場合や受信設定が必要となる場合があります。詳しくは、各携帯電話会社へお問い合わせください。
 - 配信する情報は、避難指示などの緊急かつ重要な情報です。
 - 携帯電話を利用する人の費用負担やメールアドレスの登録は不要です。

命を守るために情報の収集に努めてください

特別警報は、気象台や自治体、報道機関を通じて伝えられます。テレビやインターネット、自治体から発信される情報の収集に努めてください。



特別警報は、大規模な災害の発生が切迫していることをお知らせする警報です。普段からの備えと、早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります。

特別警報が発表されたら

- 尋常でない大雨や津波などが予想されています。
- 重大な災害が起こる可能性が非常に高まっています。
- ただちに身を守るために最善を尽くしてください。

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。

注意報や警報、その他の気象情報を収集し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。



大雨・洪水

強い雨が续くとき、洪水災害の危険性が高まります。
最新の気象情報に注意して、早めの備えをお願いします。

洪水の基礎知識

洪水

洪水とは大雨によって、川の水の量が、ふだんより著しく増えた状態をいいます。
はん濫とは、川などがあふれ広がることをいいます。
川から水があふれることを「外水はん濫」といい、街や農地に降った雨が水路などで排水しきれなくなり、あふれることを「内水はん濫」といいます。

外水はん濫



内水はん濫



洪水に関する河川情報(西郷川)

川沿いでは情報に注意し、
すばやい行動を心がけましょう。



※福岡県河川情報で西郷川四角橋の水位を確認できます。
http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis_top/



防災メモ

洪水の危険度

スマートフォンで「キキル(危険度分布)」と検索し、洪水キキルのボタンを押すと、
西郷川や八並川、手光今川などの洪水の危険度について確認できます。



気象庁危険度分布
(キキル)

局地的大雨の危険性

近年は、ごく狭い範囲に強い雨が降り、中小河川のはん濫による浸水被害が起きています。発生の予測が困難で、大雨警報や注意報の発表基準に達していない雨でも災害が発生するおそれがあります。

特に中小河川では短時間で危険な水位に上がりやすいので注意が必要です。

低い土地にお住まいの方は、気象情報の雨雲レーダーで、雨雲の動きを的確に把握できます。テレビからはdデータボタンを押して確認できます。貴重品は家の中の高い所へ、車は高台への移動をお勧めします。水の深みに入ると、エンジンが停止し、ドアや窓が開けられず脱出できなくなる恐れがあります。

もし、こんな場面にいたら...

河原や川の中州での釣りやレジャー



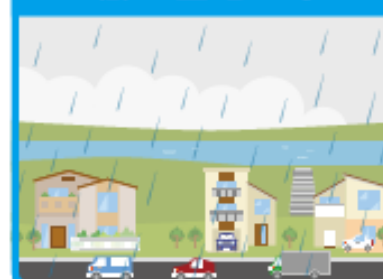
地下をくぐる形式の立体交差(アンダーパス)



河川や下水道の工事現場



川の側にある低い土地の家



天気の変化に注意し、危険を感じたらすぐに身の安全を図ってください



空の状態

「急に真っ黒な雲が近づいてきた」
「雷鳴が聞こえる」「稲光が見えた」



川の状態

「水かさが増えてきた」「にごって
きた」「流木や落ち葉が流れてきた」



警報装置

サイレンの音が聞こえる



天気予報

「大気の状態が不安定」「雷」「天
気の変化」などの表現がある



警報や注意報

雷注意報、大雨や洪水の警報・注
意報が出ている



看板

「危険区域には立ち入らない」な
どの表現がある



レーダー等の観測情報 (携帯電話などで入手)

周辺や上流で雨が降っている

こんな時は **要注意!** ➡

総雨量は少なくても、
短時間で甚大な被害が
発生することがあります

要チェック!大雨の危険を示す防災情報

大雨の増加に伴い、よく耳にするようになった気象庁の発表情報です。

線状降水帯

発達した雨雲が次々と列をなして線状に伸びる強い降水帯で、長時間にわたってほぼ同じ場所に停滞し、激しい雨を降らせず。
線状降水帯により大雨災害発生のおそれがある場合は、半日ほど前から気象庁がお知らせします。

記録的短時間大雨情報

数年に一度しか発生しないような短時間大雨(県内の規準は1時間雨量110ミリ)を観測したときに気象庁が発表します。「警戒レベル4相当」以上に該当します。この情報が発表された地域は、土砂災害や浸水、中小河川の洪水の発生につながるような猛烈な雨が降っています。

防災メモ

昭和28年6月大水害

福岡町史や津屋崎町史によると、昭和28年6月25日から九州一円を豪雨が襲い、宗像地方でも、6月25日から28日の4日間で、500ミリを越す降雨量であったとの記録があります。



土砂災害

土砂災害は、長雨や集中豪雨などが要因になって、急傾斜地などで突発的に発生して、一瞬にして大きな被害をもたらす災害です。発生する場所や現象により「がけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つに分類されています。

土砂災害の種類と前兆

急傾斜地崩壊（がけ崩れ）



がけ崩れは、地中にしみ込んだ水分で斜面が突然崩れ落ちます。突然崩れ落ちるため、避難が遅れがちになります。また、地震が原因で起こることもあります。

前兆現象

- がけから小石がぽらぽら落ちてくる



- がけから水が湧き出る



- がけに割れ目が見える



土石流



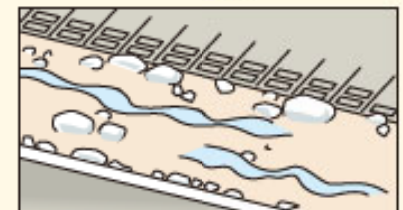
土石流は、谷間で起きます。大量の土・石・砂等が集中豪雨など大量の水と混じり合っ流れてくるので、速度が速く大きな破壊力を持っています。

前兆現象

- 急に川の水がにごり流木が混ざる



- 雨が降り続けているのに川の水位が下がる



- 山鳴りがする



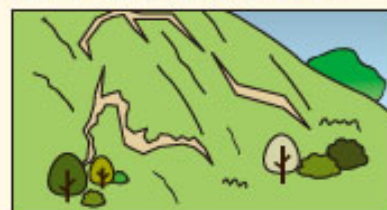
地すべり



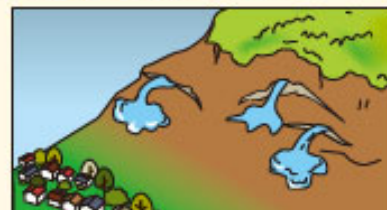
地すべりは、粘土などの滑りやすい地盤が一度に広い範囲で動き出します。速度はゆるやかですが、広い範囲に被害をもたらします。

前兆現象

- 地面にひび割れができる



- 斜面から水が湧き出す



- 井戸の水がにごる



大雨や台風、地震が起きたときは、地盤がゆるみ、土砂災害を引き起こす可能性があります。土砂災害から身を守るためには、まず自分の家の周りに危険がないか確かめることが重要です。放置されている竹林は地盤が崩れやすいので、細心の注意が必要です。所有者や管理者は適切な管理をお願いします。

土砂災害（特別）警戒区域

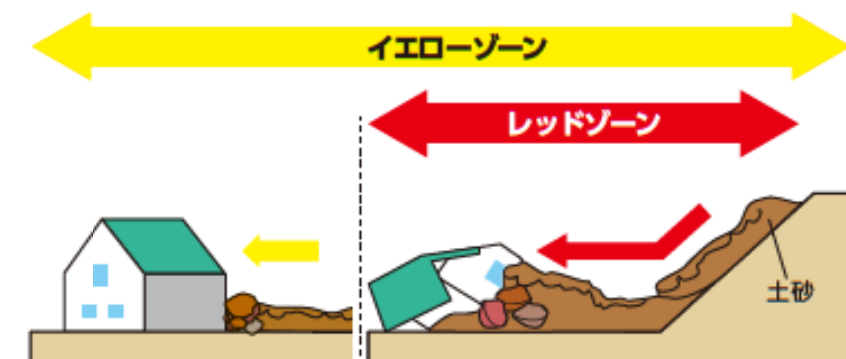
福岡県ではがけ崩れや土石流などの土砂災害から県民の命を守るため、土砂災害警戒区域及び土砂災害特別警戒区域を指定しています。土砂災害のおそれがある区域を防災マップで確認し、自宅の近くに危険な場所があるかどうか調べてみましょう。

土砂災害 特別警戒区域（レッドゾーン）

建物が破壊されるおそれがあり、住民に大きな被害が生じるおそれがある区域

土砂災害 警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害のおそれがある区域
土砂が到達するおそれがある範囲



避難行動のポイント

土砂災害は突発性が高く、甚大な被害をもたらします。

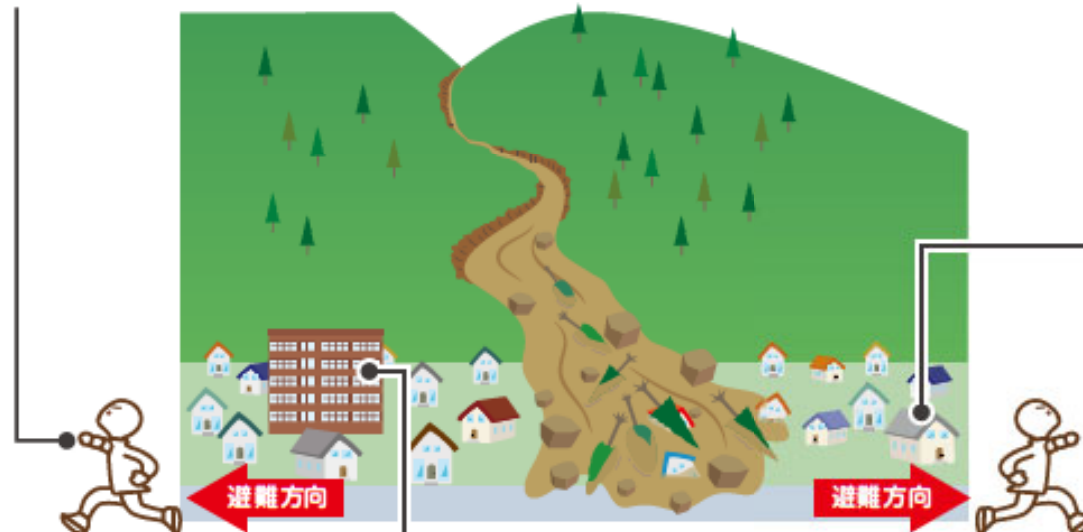
左図の前兆現象は、経験則として土砂災害発生の前に感じられるものとして知られていますが、特に特別警戒区域においては避難の猶予がほとんどないものと考え、「様子がおかしい」と感じたら、ただちに避難行動をとってください。

土砂災害警戒区域の中にある道路は行き止まりになることがあります。

避難所への避難経路を決めるときは、迂回ルートや、別の避難所への避難を検討してください。

- 1 土砂災害特別警戒区域内、また指定が無くとも「谷の出口」や「がけの下」からは、いち早く退避する。

☆土石流（特別）警戒区域では垂直に避難する。



- 2 指定避難所までの移動が困難な際は、近隣の頑丈な建物の高層階へ避難する。



- 3 外出にも危険が伴う状況で、やむなく自宅に留まる場合は、2階以上の出来るだけ山側から離れた部屋に移動する。

☆急傾斜地（特別）警戒区域では、斜面から離れる方向に避難する。

土砂災害警戒情報

※土砂災害警戒情報は、土砂災害がいつ発生してもおかしくない状況になったとき、対象地域を特定して警戒を呼びかける情報で、福岡県と気象庁が共同で発表します。この情報が出たら、特に注意が必要です。

※土砂災害警戒情報が発表されていなくても、地形や地質の条件により土砂災害が発生するおそれがあるため、その他の防災情報や土砂災害の前兆現象などにも十分注意しながら、避難の判断を行ってください。



防災メモ

土砂災害の危険度

スマートフォンで「キキクル（危険度情報）」を検索し、地図の土砂災害ボタンを押すと、身近な土砂災害の危険度を確認できます。



気象庁危険度分布（キキクル）

危険度分布の5段階区分

黒	災害切迫【警戒レベル5相当】
紫	危険【警戒レベル4相当】
赤	警戒【警戒レベル3相当】
黄色	注意【警戒レベル2相当】
白(水色)	今後の情報等に留意





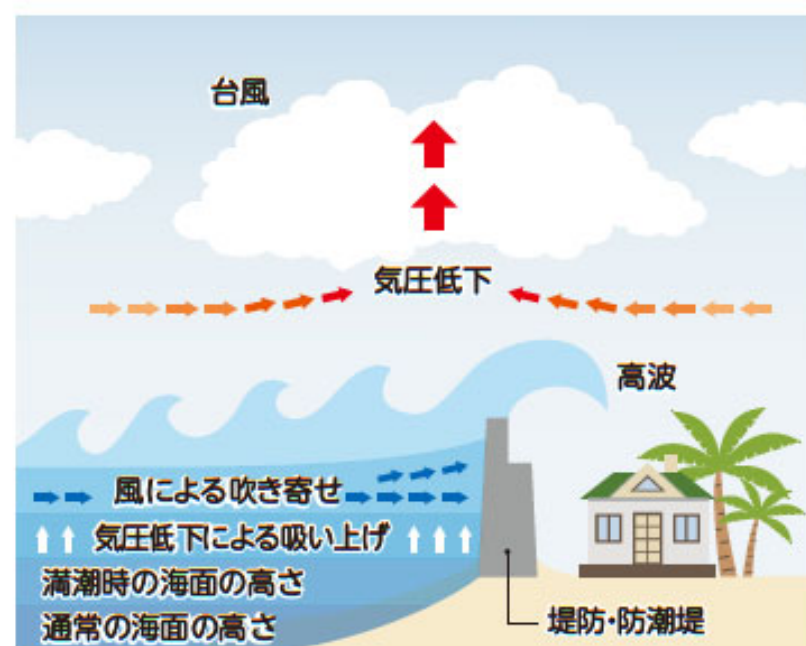
高潮

高潮が発生する仕組み

高潮とは、台風や発達した低気圧の接近により、海面が異常に高くなる現象です。

高潮が発生するとその高い潮位と波浪・強風により、海水が堤防を越えるようになり、背後地が浸水する可能性が高くなります。

また、高潮が発生している海域に流れ込む河川があれば、高い潮位や波浪により河川の流れが阻害されます。そのため、川沿いでは氾濫が発生し、海岸から離れた内陸部にまで被害を及ぼすこともあります。



高潮注意報・警報・特別警報

高潮が起きるような台風等の接近時には、潮位の上昇よりも先に暴風が吹き始めるため屋外への立退き避難が困難となります。暴風警報は、暴風が吹き始める数時間前に発表しますので、暴風警報が発表されたときは、高潮警報を待つことなく、高潮から命を守るために必要な避難行動を開始することが重要です。

台風が接近し、潮位が上昇	暴風警報、さらに潮位が上昇	台風が最接近し、高潮による浸水が発生
高潮注意報	高潮警報	高潮特別警報
台風や低気圧等による異常な潮位上昇により災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表	台風や低気圧等による異常な潮位上昇により重大な災害が発生するおそれがあると予想されたときに発表	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により高潮になると予想されたときに発表
被害が想定されるときには		
- テレビやラジオ、インターネットなどで最新の防災気象情報入手 - 非常用品や指定避難所等、避難経路を確認 - 災害に備えて、家の外まわりを点検	- 暴風域に入る前に早めの避難 - 緊急速報メールや防災行政無線など市からの避難情報に注意する	- 隣近所の安全を確認する - 避難時に支援が必要な方への支援を行う - 災害情報、被害情報を収集する - 協力して避難や救出活動などを行う

防災メモ 高潮の危険度

満潮の時と、台風が上陸するタイミングが重なると、高潮の危険が高まります。

台風が市の西側を通るときは、特に風に警戒を強める必要があります。台風の進路に加えて、台風が福津市の東側を通るのか西側を通るのかにも注目して、予報を見てみましょう。

防災メモ 津波の水位、到達時間

県では、津波防災地域づくりに関する法律に基づき、津波浸水想定を設定しています。

市の最大クラスの津波想定(西山断層地震)は、影響開始時間が地震発生1分後で標高水位20cm、最高津波到達時間が地震発生8分後で標高水位3.8mという予想が出ています。



津波

気象庁では、津波による災害の発生が予想される場合に、地震が発生してから約3分を目標に津波警報(大津波、津波)または津波注意報を発表します。

津波とは

海底で大きな地震が発生すると、断層運動により海底が隆起もしくは沈降します。これに伴って海面が変動し、大きな波となって四方八方に伝播するものが津波です。逆に、水深が浅くなるほど速度が遅くなるため、津波が陸地に近づくにつれ、後から来る波が前の波に追いつき、波高が高くなります。

津波の速度と高さ



津波警報・注意報の種類

※大津波警報は特別警報に位置付けられています。

津波注意報	津波警報	大津波警報
〈1m〉	〈3m〉	〈5m、10m、10m超〉
予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。
海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台など安全な場所へ避難してください。
[津波注意報のサイレン音] サイレン吹鳴時間 無音時間 10秒 2秒 10秒 2秒 ※サイレン音は10秒吹鳴2秒休止の2回繰り返し	[津波警報のサイレン音] サイレン吹鳴時間 無音時間 5秒 6秒 5秒 6秒 ※サイレン音は5秒吹鳴6秒休止の2回繰り返し	[大津波警報のサイレン音] サイレン吹鳴時間 無音時間 3秒 2秒 3秒 2秒 3秒 2秒 ※サイレン音は3秒吹鳴2秒休止の3回繰り返し
※津波のおそれがあるときには、防災行政無線からサイレンを吹鳴し、サイレンの後に音声放送を行います。		

津波が発生したときには

海岸や川の近くで地震の揺れを感じたら、速やかに避難しましょう。津波が海岸にやってくるのを見てから避難を始めても間に合いません。

- 小さな揺れでも油断禁物**
小さな地震でも、長い時間ゆっくりとした揺れの場合、津波が来る可能性があります。
- 高い場所へ避難する**
海岸からはなれ、「より高い」場所へ避難しましょう。
- スピードは速い**
「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。海岸近くにいる時に揺れを感じたら、ただちに避難しましょう。
- 繰り返し来る**
津波は繰り返し襲ってきます。また、第1波が最大の高さになるとは限りません。波が落ち着くまでは注意しましょう。
- 引き潮がなくても注意**
震源付近の地形によっては、引き潮が起こることなく大きな波が押し寄せる場合もあります。
- 大潮の満潮のときは特に要注意**
満潮のときは水位が高くなっているため、被害が大きくなります。
- 正しい情報を聞く**
テレビ、ラジオ、インターネットなどで正しい情報入手しましょう。
- 河川に近づかない**
津波は河川をさかのぼり、内陸深くまで進入することもありますので、河川に近づかないようにしましょう。
- 海岸に近づかない**
注意報、警報が解除されるまで海辺には絶対に近づかないようにしましょう。
- 海上では**
船舶は無線などの情報ですみやかに行動しましょう。

マイ・タイムライン

台風・豪雨に備え、防災マップと一緒に「避難行動判定フロー」を確認しましょう。

平時に
確認

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取組みましょう

防災マップ※で自分の家がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう。

※防災マップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地やがけのそばなどにお住まいの方は、市からの避難情報を参考に必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、自宅の外に避難が必要です。

例外

浸水の危険があっても、
①家屋倒壊等はん濫想定区域の外側である。
②浸水する深さよりも高い居室にいる。
③浸水しても水がひくまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。
この3つの条件がそろえば、自宅にとどまり安全確保することも可能です。

ご自身または一緒に避難する方は、避難に時間がかかりますか？

いいえ

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3が出たら、安全な親戚や知人宅、ホテルなどに避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル3が出たら、市が開設する指定緊急避難場所に避難しましょう。

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4が出たら、安全な親戚や知人宅、ホテルなどに避難しましょう（日頃から相談しておきましょう）。

いいえ

警戒レベル4が出たら、市が開設する指定緊急避難場所に避難しましょう。

※密にならないよう、分散避難を心がけましょう。

出典：内閣府（防災担当）「避難行動判定フロー」を加工・編集し作成

マイ・タイムライン

「台風が発生」してから「川の水がはん濫」するまでのそなえを、チェックしよう！

「台風が発生」してから「川の水があふれる」まで

あなたのタイムライン
～とるべき行動を記入しましょう～

そなえの例
～台風発生から川の水があふれるまで、どんな行動をするかチェックしましょう～

1 台風が発生

3日前

警戒レベル1
天気予報で台風がきたって言っているよ。まだ雨や風は強くないね。



2 台風が近づいて、雨や風がだんだん強くなる

1日前

警戒レベル2
雨や風が強くなると、お出かけは大変だね。



3 雨が集まって、川の水がだんだん増える

半日前

自分がいるところで降ってなくても、上流で雨が降れば川の水は増えてくるよ。



4 激しい雨で、川の水がどんどん増えて、河川敷にも水が流れる

高齢者等避難

警戒レベル3
このまま増えると、川の水があふれるかも。



5 川の水がいっぱいであふれそう

避難指示

警戒レベル4
もうギリギリ。川の水があふれる前に、安全なところへ逃げなさい！



6 川の水があふれた

緊急安全確保

警戒レベル5
川の水が一気に広がって、街じゅうが水びたし。こうなると動けないぞ。



- ☐ 台風の今後の推移を調べる
- ☐ 家族で避難について話しあう
- ☐ 家の周りに風で飛ばされるようなものがないか確認する

- ☐ テレビ、インターネット等で、雨や川の様子に注意する
- ☐ 避難するときに持って行くものを準備する
- ☐ 家族と連絡を取りあう

- ☐ 防災マップで、避難場所、避難手段を再確認する

- ☐ 川の水位を調べ始める（直接見に行かないように注意!）

- ☐ 携帯メール等で避難情報を受信する
- ☐ 安全なところへ移動を始める

避難完了



出典：国土交通省「小中学生向けマイ・タイムライン検討ツール ～逃げザキッド～」を加工・編集し作成



避難のポイント

避難の心得

避難は自ら判断を

災害が迫ったとき、置かれた状況は一人ひとり違います。自ら考え、「自分の命は自分で守る」という意識を持って行動しましょう。

具体的には

- 土砂災害の危険がある地域に住んでいる。
- 河川のはん濫により、浸水の危険がある地域に住んでいる。
- 子どもや高齢者など家族に要配慮者がいる。

気象情報や市の避難情報に注意し、早めの避難を心がけてください。



命を守る最低限の行動を

危険な状況の中での避難は出来るだけ避け、安全の確保を第一に考えます。危険が切迫している場合は、命を守る最低限の行動が必要な場合もあります。

具体的には

- 夜間や急激な降雨で避難経路上の危険箇所がわかりにくい。
- ひざ上まで浸水している。(50cm以上)
- 浸水は20cm程度だが、水の流れる速度が速い。
- 浸水は10cm程度だが、用水路などの位置が不明で転落のおそれがある。

屋外での移動は危険です。自宅や近隣建物の2階以上へ(土砂災害の場合は、斜面から離れた部屋など)緊急的に一時避難し、救助を待つことも検討してください。



避難時の心得

スマートフォンに市LINEやフェイスブック等のSNS、防災すまっぼん!!、県防災アプリ・まもるくんを登録しよう!

- 非常持出品は最小限に!**
非常持出品はリュックサックにまとめ、身軽に行動できるよう持出品は最小限にしましょう。
- 外出中の家族には連絡メモを残そう!**
外出中の家族に「どこどこへ避難する」といったような連絡メモを残しておくとい良いでしょう。
- 避難先について**
親類や知人などに避難することを連絡しておきましょう。
- 浸水した道路を通る場合**
水路には十分注意して、できるだけ高いところにある道路を選びましょう。
- 家族の住所、氏名、連絡先などを記載した防災メモを持とう!**
特に高齢者や子どもは、事前にメモを用意し、身に付けて避難しましょう。
- 避難所に避難するときは**
水や食料、常備薬、防寒対策グッズなどのほか、感染症対策に体温計やアルコール消毒液などを持っていきましょう。
- 徒歩での避難を!**
車での避難は緊急車両の通行の妨げになり、交通渋滞を招きます。車中泊避難などの場合を除き徒歩で避難しましょう。
- 一人暮らしの高齢者などには心配りを**
近所の一人暮らしの高齢者や病気の方がいる場合は、声を掛け合って一緒に避難しましょう。



地域での備え(自主防災組織)

自主防災組織への参加

大地震などで大規模災害が発生すると、火災の同時多発や建物崩壊、道路の寸断などで防災機関が十分に機能しなくなり、各地域の被災者、負傷者を助けることは困難となるため、近隣住民、地域ぐるみで一致協力して防災活動を行う「共助」が重要です。「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えで隣近所が協力し、地域が一体となって防災活動を行う団体が「自主防災組織」です。「自主防災組織」の行う訓練は、防災活動に関する知識や技術を学ぶよい機会です。ぜひ参加しましょう。

なお、防災に関する資料や訓練の方法などについてのご相談は市役所防災安全課(☎0940-43-8107)までお問い合わせください。

自主防災組織の活動

自主防災組織の活動には、災害に備えて被害の発生や拡大を未然に防止するため日常的に行う活動(平常時の活動)と、災害が発生した後に地域内で被害の発生や拡大を防止するために行う活動(災害発生時の活動)があります。

平常時の活動

防災意識の啓発、防災知識の普及

講習会や訓練を通して防災についての正しい知識を身につけましょう。

地域内の防災環境の確認

災害時に備えて、指定避難所等や避難経路の把握、被害が発生しそうな箇所の確認を行いましょう。

防災資機材の点検・整備

消火活動、救出・救護、応急手当などに必要な防災資機材を点検・整備しましょう。

防災訓練の実施

日ごろから災害に備えて訓練を行い、防災活動に必要な知識・技術を習得しましょう。

避難経路の検討

配布された防災マップをふまえて避難経路を考えましょう。

要配慮者の把握

災害発生時の避難に配慮を要する人(要配慮者)の把握に努めましょう。まずは個人情報の提供に同意するよう要配慮者を平常時から把握しましょう。



自主防災組織

災害発生時の活動

情報収集・伝達

災害に関する情報を収集し、市民のみなさんへ正しい情報を伝達します。

火災の消火

消火器などによる消火活動を行います。



要配慮者の避難支援

災害発生時に障がいの区分等に配慮し情報伝達を行います。また、避難行動要支援者名簿に基づいて避難支援を行います。

避難誘導

市民の安否確認や避難誘導などを行います。

救出・救護

被災者の救出・救護を行います。また、高齢者や障がい者などへの支援を行います。

避難所運営

大災害により自宅で暮らせなくなった場合には、生活するために指定避難所を開設します。みんなで役割を分担し、避難所運営を行います。食料品や救援物資の分配やそうじ、見回り、必要に応じて炊き出しなども行います。

市一斉防災訓練への参加

福津市では、防災意識の啓発、防災知識の普及の機会として、11月5日「世界津波の日」直後の土曜日に、西山断層を震源にした大地震の発生を想定し、自分の身を守り避難経路を確認し、「自助」と「共助」を実践する市一斉防災訓練を実施しています。防災行政無線や緊急速報メールを合図に始まる訓練に是非参加してください。

消防団に入ってみよう

消防団は地域住民によって構成された消防機関で、消防署と協力して火事の消火活動や大雨時の水防活動など、地域を守る活動を行っています。

消防団員は、仕事や家庭を持ちながら地域の安全と安心を守るために活動しています。

あなたの力を地域の防災に生かしてみませんか。



家庭での備え

時間経過に伴って必要なものは変わる

いざという時のために、非常持出品や備蓄品を準備し、定期的に点検を行ってください。
下図(例)を参考に、各ご家庭の備えについてチェック☑していきましょう。

	① 常時携行品 外出先で被災した場合に役立つ防災グッズ ▶いつも持ち歩くバッグなどに入れて、常に携行する	② 非常持出品 避難の際に緊急的に自宅から持ち出す物 ▶リュックサックなどに入れ、玄関など持ち出しやすい場所に	③ 備蓄品 被災後の数日を乗り切るための食料など ▶運びやすい収納ケースなどに入れてキッチンや押し入れに
貴重品	☐ お財布・携帯電話 ☐ 健康保険証 ☐ 運転免許証 ☐ マイナンバーカード	☐ 印鑑・預金通帳 ☐ 健康保険証(コピー) ☐ 運転免許証(コピー) ☐ マイナンバーカード(コピー)	☐ 予備の鍵(自宅・車) ☐ ☐ ☐
飲料水	☐ ペットボトル500mlを1本 ☐	☐ ペットボトル500mlを3本 ☐	☐ ペットボトル(1人1日3ℓ) ☐ 野菜ジュース
非常食品	☐ 携帯食料(飴など) ☐ ☐	☐ ドライフーズ ☐ ビスケット、チョコレートなど ☐	☐ 主食(レトルトごはん・麺・パン) ☐ 主菜(缶詰・レトルト・冷凍食品) ☐ カップ麺・インスタント味噌汁
救急医療品	☐ ばんそうこう ☐ ☐	☐ 常備薬(風邪薬・胃腸薬・鎮痛剤) ☐ 体温計 ☐	☐ 傷薬・包帯 ☐ ☐
衛生品	☐ 携帯消毒液 ☐ 歯ブラシセット ☐ ティッシュ ☐ マスク	☐ 液体歯磨き ☐ お薬手帳 ☐ ウエットティッシュ ☐	☐ 簡易トイレ ☐ 石鹸・洗面用具 ☐ トイレトペーパー ☐ ドライシャンプー
ライト	☐	☐ 懐中電灯	☐ LEDランタン
ラジオ	☐	☐ 携帯ラジオ	☐
燃料等	☐ ☐ ☐	☐ 携帯電話の充電器 ☐ ☐	☐ 電池(多めに) ☐ 卓上コンロ・ガスボンベ・固形燃料 ☐ ライター、マッチ
衣類	☐ ハンカチ ☐ ☐	☐ タオル ☐ ブランケット ☐ 下着・靴下	☐ 毛布・寝袋 ☐ 着替え
その他	☐ 連絡メモ・筆記用具 ☐ ビニール袋 ☐ ホイッスル ☐ 折りたたみ傘 ☐ ☐	☐ 軍手 ☐ スリッパ ☐ 使い捨てカイロ ☐ ビニールシート ☐ 雨具(カッパ) ☐	☐ 紙皿・紙コップ ☐ 箸・スプーン ☐ ラップフィルム ☐ ゴミ袋・バケツ ☐ 生活用水(風呂等に貯水)・ポリタンク ☐ なべ・やかん

※外出前は携帯電話を充電しておきましょう ※帰宅困難対策として仕事先にも非常持出品を置いておきましょう

家庭状況によって必要なものは変わる

非常持出品や備蓄品を検討する場合、乳幼児がいる、寝たきりの高齢者などの要介護者がいるといった家族構成や、ペットを飼っているといった暮らし方などの違いによって、揃えるべきものが異なります。各家庭の事情に応じた備えが必要です。

妊婦がいる場合

生理用品、ガーゼ、さらし、新生児用品、母子手帳 など

乳幼児がいる場合

粉ミルク、ほ乳瓶(消毒セット)、離乳食、紙おむつ、おしりふき、おもちゃ、母子手帳 など

要介護者がいる場合

介護用品、入れ歯、補聴器、大人用紙おむつ、補助具の予備、常備薬、障害者手帳 など

ペットがいる場合

ペットフード、ペット用品(食器、トイレ、リード、ケージ)、飼い主の連絡先 など

ローリングストックとは

日常の食料を多めに購入し、消費期限前に消費して、その都度買い足すことにより食料などを保有する方法です。福岡県備蓄計画では、各家庭において避難生活に必要な物資の最低3日分の備蓄に努めることとされています。



突然の災害に備えて、今、自分たちでできることを見回してみましょう。日頃から対策ができているか、☑チェックしましょう。

地震への備え

Check Point

家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる
部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。

Check Point

寝室、子どもやお年寄りのいる部屋には家具を置かない
就寝中に地震に襲われると危険。子どもやお年寄り、病人などは逃げ遅れる可能性がある。

Check Point

安全に避難するため、出入口や通路にもものを置かない
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。

Check Point

急な停電時の対応策を知っておく
ブレーカーの位置を知り、携帯電話のライトや懐中電灯を活用できるよう準備しておく。

家の中の安全対策

Check Point

お風呂の水は流さないでためる
消火用水やトイレなどの生活用水としてためておく。

Check Point

照明
チェーンと金具を使って数か所止める。蛍光灯は蛍光管の両端を耐熱テープで止めておく。

Check Point

花瓶や水槽
割れると危険なものは高い場所に置かない。

Check Point

冷蔵庫
固定器具等を用いて冷蔵庫が転倒・滑らないよう固定する。

Check Point

テレビ
できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上は避ける)。

Check Point

暖房器具の配置に気をつける
ストーブを、ふすまや障子、カーテンの近くで使用しない。

Check Point

タンス・本棚
L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。

Check Point

食器棚
L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。

窓ガラス破損に備え、スリッパを用意しよう

家の周囲の安全対策

Check Point

屋根
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

Check Point

窓ガラス
飛散防止フィルムをはる。

Check Point

プロパンガス
ボンベを鎖で固定しておく。

Check Point

ブロック塀・門柱
土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

Check Point

ベランダ
植木鉢などの整理整頓。落ちる危険がある場所には何も置かない。



地震

緊急地震速報

「緊急地震速報」は、震度5弱以上の揺れが予測された時に、震度4以上の揺れを予測した地域に対して、気象庁から発表されます。この数秒～数十秒後に強い揺れが始まりますので、ただちに身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。



まず低く

DROP!



頭を守り

COVER!



動かない

HOLD ON!

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

グラツときたら
地震発生!

最初の大きな揺れは約1分間

- まず、自分の身を守る安全確保
- ドアや窓を開けて逃げ道を確保



1～3分

揺れがおさまったら

- 火元を確認し、ブレーカーを落とす
- 靴をはいて外に出る
- 家族の安全を確認
- 沿岸部は津波にそなえて高台へ避難



消す

5分

みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

隣近所に
声をかけよう

- 一人ぐらしの高齢者などの安全を確認

出火防止
初期消火

- 初期消火
- 余震に注意
- 漏電・ガス漏れに注意



10分

ラジオやスマートフォンなどで正しい情報を得る

- けが人や行方不明者がいないか確認
- 防災情報、避難情報を確認する
- デマにまどわされない
- 避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



数時間

協力して消火活動、救出・救護活動

- 水、食料は蓄えているものでまかなう ※3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 災害・被害情報の収集
- 助け合いの心が大切
- 無理はやめよう
- 壊れた家に入らない

屋内にいた場合

- 家の中
- 裸足で歩き回らない



- デパート・スーパー
- 柱や壁ぎわに身を寄せる

- マンション・集合住宅

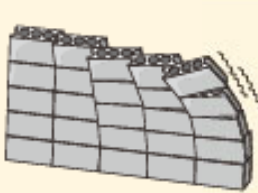
- ドアや窓を開けて避難口を確保する
- エレベーターは使わない



- ホール・映画館
- 座席の間に身を隠す

屋外にいた場合

- 路上
- 落下物に注意し、ビルのそばから離れる
- ブロック塀や自動販売機などに近づかない



- 車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とす

- 海岸付近
- 高台に避難する



- 山やがけ付近

- 落石やがけ崩れに注意する

震度マップについて

この地図は、福岡県地震に関する防災アセスメント調査報告書(平成24年3月)を使用して作成したもので、被害が最大となる西山断層(震源断層(西山断層)の長さ31km、マグニチュード7.3)による地震を想定しています。



ゆれやすさマップについて

「ゆれやすさマップ」は、マグニチュード7.3の規模の地震が発生した場合のゆれやすさ(震度)を予想した地図となっています。
(※「マグニチュード」は地震が起こった時の地震の規模を示すもので、「震度」は地震によりある場所が揺れる程度を示しています。)

危険度マップについて

「危険度マップ」は、「ゆれやすさマップ」で示した強さの揺れが起こった場合の建物被害の程度(木造建物全壊率)を表しています。木造建物全壊率は、地域に建っている木造建物のうち、何割の建物が全壊するかを想定しています。全壊率の数値が大きくなるほど、建物が受ける被害が大きくなることが予想されます。

液状化マップについて

「液状化マップ」は、地震により地盤が強い衝撃を受けて、土の粒子がバラバラになり、地盤全体がドロドロの液体のような状態になる現象のことをいいます。液状化が発生すると、地盤から水が噴き出したり、その上に立っていた建物が沈んだり(傾いたり)、マンホールや埋設管が浮かんできたり、地面全体が低い方へ流れ出すといった現象が発生します。

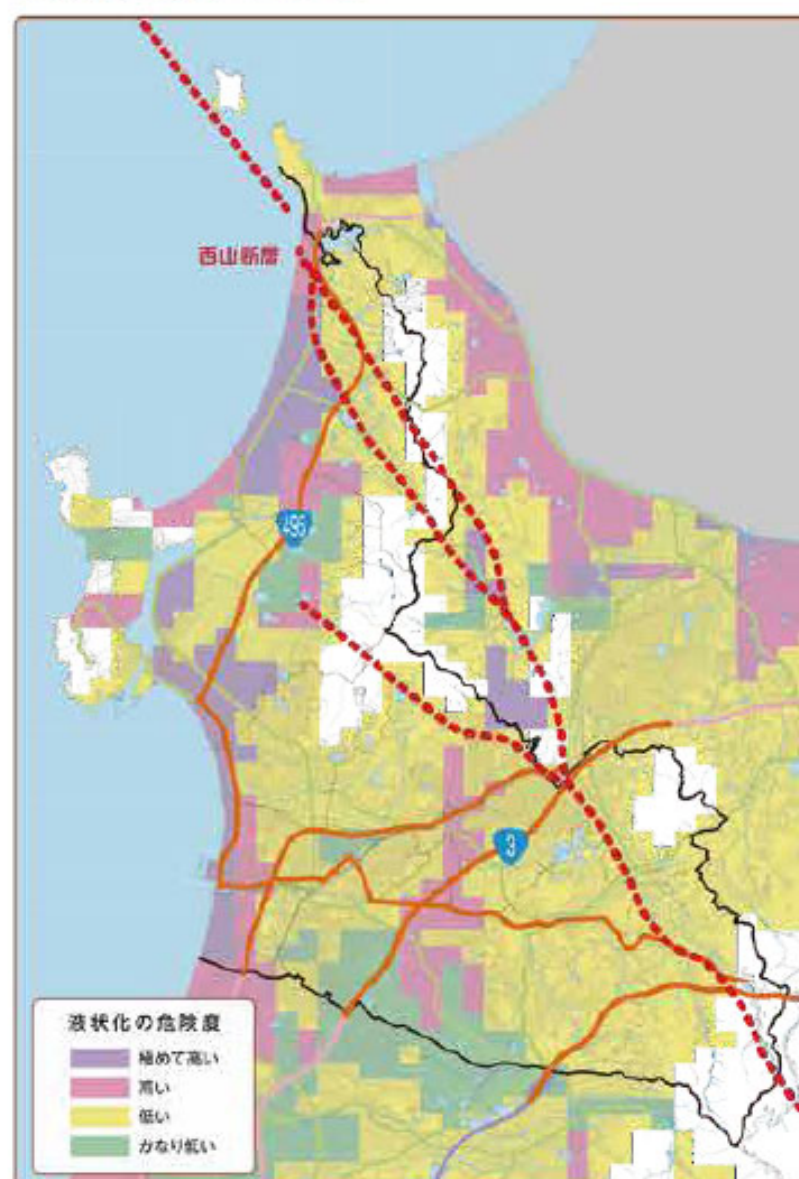
ゆれやすさマップ



危険度マップ



液状化マップ





火災

1人で消せるだろうと考えず、隣近所に火事を知らせ、すみやかに119番通報を。
初期消火で火事を消せなかったら、すばやく避難しましょう。

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ」と大声を出し、声が出なければやかんなどを叩き、隣近所に異変を知らせる。
- 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火に当たり、近くの人に通報を頼む。

2 早く消火する

- 出火から3分以内が消火できる限度。
- 水や消火器だけでなく、座布団で火を叩く、毛布で覆うなど手近なものを活用する。

覚えておこう!「119」のかけ方

119番通報では、次のような内容を落ち着いて正確に答えましょう。

- ①火災が発生していること
- ②出火場所の住所はどこか。
目印になる建物・施設なども
- ③何が燃えていて、火災の規模はどの程度なのか
- ④けが人や逃げ遅れた人はいるか
- ⑤通報者の名前と電話番号

火災の問い合わせは ☎ 092-791-1679



初期消火のコツ

油なべ	電気製品	衣類
水をかけるのは厳禁。消火器がなければ濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火を。	いきなり水をかけると感電の危険が。まずコードをコンセントから抜いて(できればブレーカーも切る)消火を。	着衣に火がついたら転げまわって消すのも方法。髪の毛の場合なら衣類(化繊は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。
ストーブ	カーテン・ふすま	
消火器は直接火元に向けて噴射する。石油ストーブの場合は粉末消火器で。消火器がない場合は、水にぬらした毛布などを手前からすべらせるようにかぶせ、空気を遮断する。	カーテンやふすまなどに火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して火元を天井から遠ざけ、その上で消火を。	



3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。
- 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。
- 濡らしたタオルやハンカチなどで口と鼻を覆う。
- できるだけ姿勢を低く、身をかがめて避難する。

消火器の使い方

粉末・強化液消火器の場合



消火器のかまえ方

- 風上に回り風上から消す。炎には真正面に向き合わない。
- やや腰を落として姿勢をなるべく低く。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされずに燃えているものにノズルを向け、火の根元を掃くように左右に振る。

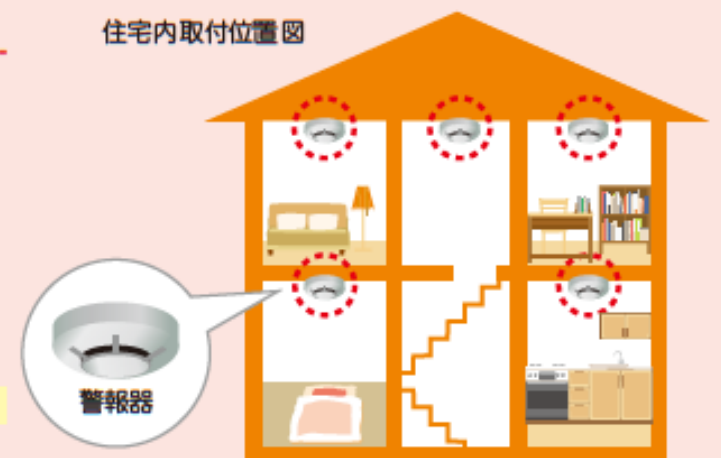


火災予防が一番!! - 住宅用火災警報器の設置義務化 -
消防法の改正により、住宅用火災警報器の設置が義務付けられました。命を守るために設置しましょう。

火災警報器の設置場所

- 寝室および「寝室に行く階段」の天井への設置が必要です。
- 台所への設置もおすすめします。

住宅用火災警報器は、設置して約**10年**が交換の目安です!



防災情報の入手先

防災情報の入手先

 福津市公式ホームページ https://www.city.fukutsu.lg.jp/	 福津市公式 LINE https://line.me/R/ti/p/%40975lauty
 福津市地図サービス https://www.sonicweb-asp.jp/fukutsu2/	 福岡県総合防災情報 http://doboku-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/gis_top/
 県防災アプリ・まもるくん https://www.bousai.pref.fukuoka.jp/lp/app_mamorukun/	 App Store (iPhone) Google Play (Android)
 福岡県砂防課ホームページ https://sogo-bousai.pref.fukuoka.lg.jp/sabo/	 福岡管区気象台 https://www.jma-net.go.jp/fukuoka/
 気象庁 ホームページ https://www.jma.go.jp/	 気象庁危険度分布 (キキフル) https://www.jma.go.jp/bosai/#area_type=class20s&area_code=4022400&pattern=rain_level
 気象庁 ナウキャスト (雨雲の動き・雷・雹) https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/	 国土交通省 防災ポータル https://www.mlit.go.jp/river/bousai/olympic/index.html
 国土交通省 重ねるハザードマップ / わがまちハザードマップ https://disaportal.gsi.go.jp/	 国土交通省 川の防災情報 https://www.river.go.jp/
 国土交通省 逃げなきやコール https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall_s.html	 台風や落雷による停電情報 (福津市の停電を調べるとき) https://www.kyuden.co.jp/td_teiden_map/index.php/detail/40/01/224
 NHK ニュース・防災 iOS版 https://apps.apple.com/jp/app/id1121104608	 Android版 https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.or.nhk.news
 Yahoo! 防災速報 iOS版 https://apps.apple.com/jp/app/id481914139	 Android版 https://play.google.com/store/apps/details?id=jp.co.yahoo.android.emg

災害用伝言サービス

災害発生時は、家族や知人と連絡が取れなくなることがあります。事前に話し合い、連絡方法を確認しておきましょう。なお、電話会社各社では、大規模な災害発生時に災害用伝言ダイヤルなどを利用できます。事前に利用方法を確認しておきましょう。

一般社団法人電気通信事業者協会 (災害への取組み)	https://www.tca.or.jp/information/disaster.html
NTT西日本 (災害用伝言ダイヤル171)	http://www.ntt-west.co.jp/dengon/
災害用伝言板 (web171)	https://www.web171.jp/
NTT docomo (災害用伝言板)	https://www.docomo.ne.jp/info/disaster/disaster_board/index.html
au (災害用伝言板サービス)	https://www.au.com/mobile/anti-disaster/saigai-dengon/
SoftBank (災害用伝言板)	https://www.softbank.jp/mobile/service/dengon/boards/
Rakuten Mobile (災害用伝言板)	https://network.mobile.rakuten.co.jp/service/disaster_board/

避難所一覧

避難所の開設

市では災害時などに避難所を開設します。この避難所は、気象情報や各地域の地形などを考慮し、市が必要と判断した際に開設しています。

最新の避難所開設情報は、市公式ホームページのトップページや、緊急速報メール、防災行政無線などでお知らせします。

市内の指定避難所等

指定一般避難所および指定緊急避難場所、指定福祉避難所

地域名	区分	施設名	海拔 (メートル)	災害別の避難所				
				土砂災害	洪水	地震	津波	高潮
勝浦		勝浦小学校	7.5	○	○	○	○	○
		農林漁業体験実習館(あんずの里)	22.0	○	○	○	○	○
津屋崎		津屋崎小学校	3.0	○	○	○	○	×
		津屋崎中学校	5.0	○	○	○	○	○
		県立水産高等学校	2.0	○	○	○	×	×
		複合文化センター文化会館「カメリアホール」	4.5	○	○	○	○	●
		津屋崎体育センター	5.0	○	○	○	○	×
宮司		宮司コミュニティセンター	6.5	○	○	○	○	○
神興		神興小学校	61.0	○	○	○	○	○
		県立光陵高等学校	42.5	○	○	○	○	○
		中央公民館	21.0	○	○	○	○	○
		健康福祉総合センター「ふくとびあ」	16.0	○	●	○	○	○
神興東		神興東小学校	35.5	×	○	○	○	○
		福間東中学校	33.0	○	○	○	○	○
福間		福間小学校	9.0	○	○	○	○	○
		福間体育センター	5.5	○	○	○	○	×
		福間中学校	14.0	○	○	○	○	○
		市立図書館	15.5	○	○	○	○	○
福間南		福間南小学校	9.0	○	△	○	○	○
上西郷		上西郷小学校	29.0	○	○	○	○	○

※「土砂災害」「洪水」「地震」「津波」「高潮」は、災害ごとの避難所の分類を示し、「○」は避難所として使用できること、「×」は避難所として使用できないことを表しています。

※「●」については、状況に応じて2階を使用します。

※「△」については、状況に応じて校舎2階を使用します。

※福祉避難所の受入対象者は要配慮者で、家族なども受入対象とします。

広域避難場所

地域名	施設名	地域名	施設名
勝浦	勝浦小学校グラウンド	神興東	神興東小学校グラウンド
	あんずの里運動公園多目的広場		福間東中学校グラウンド
津屋崎	津屋崎小学校グラウンド	福間	福間小学校グラウンド
	津屋崎中学校グラウンド		福間中学校グラウンド
	県立水産高等学校グラウンド	福間南	福間南小学校グラウンド
神興	神興小学校グラウンド	上西郷	上西郷小学校グラウンド
	県立光陵高等学校グラウンド		なまずの郷多目的グラウンド

避難所・避難場所の種類

指定緊急避難場所 住民等が災害から命を守るために緊急的に避難する際の避難先

指定一般避難所 災害の危険性があり避難した住民等を災害の危険がなくなるまでに必要な期間滞在させ、または居住の場所を確保することが困難な被災した住民等が一定期間避難生活を送る場所

広域避難場所 地震などの災害によって火災が延焼拡大した際に、身を守るために一時的に避難する屋外の場所

指定福祉避難所 高齢者、障がいのある人、乳幼児等の特に配慮を要する人を滞在させることを想定した避難所

ペットとの同行避難が可能な避難所

施設名	場所
中央公民館	福津市手光2222番地
複合文化センター文化会館「カメリアホール」	福津市津屋崎1丁目7番2号
宮司コミュニティセンター	福津市宮司浜2丁目15番1号
農林漁業体験実習館(あんずの里)	福津市勝浦1667番地1
健康福祉総合センター「ふくとびあ」	福津市手光南2丁目1番1号
津屋崎体育センター	福津市津屋崎1丁目5番1号

※人とペットの避難スペースは、別になります。

※ペットはケージに入れ、水やエサ、その他飼育に必要なものを持参してください。

自主避難所

市が避難情報を発令していない段階で、気象状況および自宅での待機に不安を持つ市民の人からの問い合わせ状況を考慮した上で、事前の避難を希望する人を対象に一時的に開放する施設です。飲料水や食料、寝具などの提供はありませんので、各自で準備が必要です。

分散避難

指定避難所等以外の場所に避難することを「分散避難」といいます。

避難する場所は、そのときの状況によって変わります。

緊急度 ↓	在宅避難	自宅で安全が確保できる場合は自宅で待機する
	指定緊急避難場所・親戚宅・知人宅・ホテルなど	指定緊急避難場所などへの「早期の立退き避難」 事前の準備と早めの判断・行動が必要
	近隣の安全な場所	浸水が既に始まっていて長距離移動が危険 避難経路の途中で土砂災害の恐れがある場合
	屋内安全確保	外に出る方がかえって危険な場合は、その時点でいる建物にとどまる 建物内のより安全な場所(上の階、山から離れた部屋)へ移動する

洪水発生
土砂災害発生



索引図

防災マップには、さまざまな自然災害の情報や、指定避難所等の防災関連施設を記載しています。地震や津波、大雨に備えて浸水や被害が想定されている場所や状況を確認しましょう。

地図で示している危険箇所以外でも災害が起きる危険性がありますので、日ごろから地域の危険箇所を把握し、いざというときには早めの避難を心がけてください。

洪水・土砂災害・津波防災マップについて

土砂災害(特別)警戒区域

福岡県が令和5年10月6日までに指定している「土石流」「急傾斜地の崩壊」「地すべり」の土砂災害(特別)警戒区域を地図上に示しています。

洪水浸水想定区域

想定し得る最大規模の降雨によって河川がはん濫した場合の浸水範囲と浸水深を示したものです。

浸水継続時間

西郷川の想定しうる最大規模の降雨による浸水継続時間は12時間未満です。

対象となる河川	前提となる降雨	県公表年月日
西郷川水系西郷川	12時間の総雨量 925mm	平成31年3月29日
西郷川水系大内川、本木川	12時間の総雨量 925mm	令和3年 5月31日
手光今川水系手光今川	24時間の総雨量 1,103mm	令和4年 5月27日
釣川水系八並川	6時間の総雨量 543mm	平成30年4月27日

家屋倒壊等氾濫想定区域

洪水浸水想定区域の中でも、早期に確実な立ち退き避難が必要な区域です。

●洪水氾濫

堤防の決壊等により河川がはん濫した場合に、木造家屋の流出や倒壊を生じるような強い水の流れが発生するおそれがある区域です。

●河岸侵食

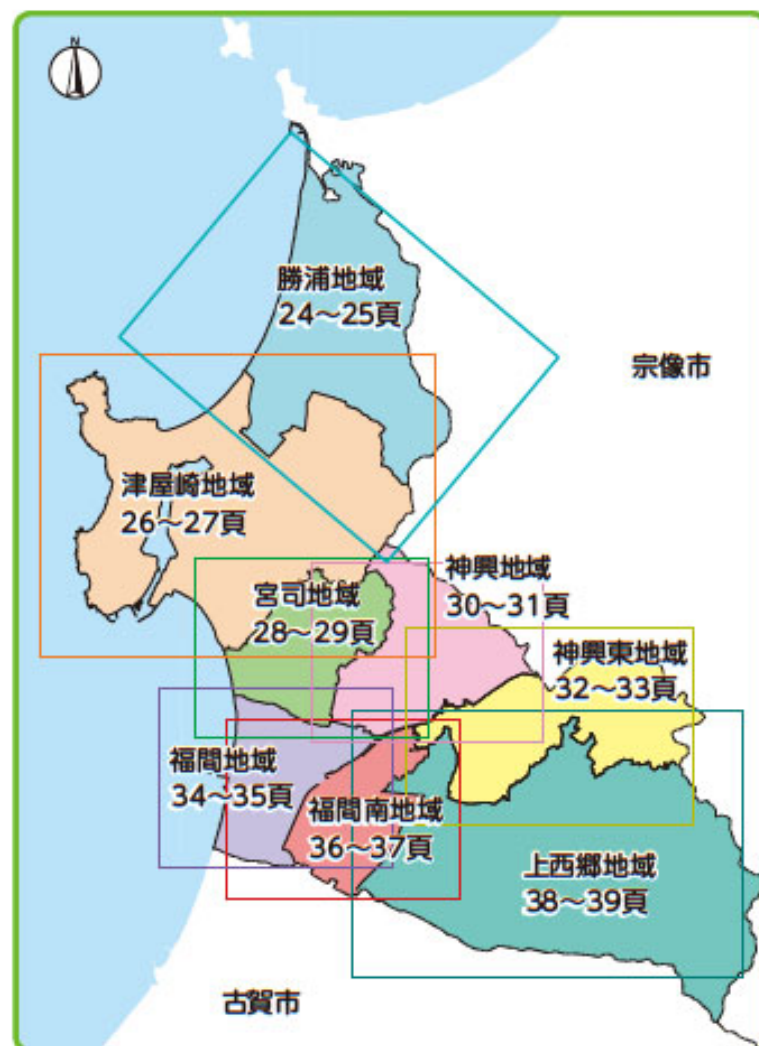
強い河川の流れにより河岸が侵食され、木造・非木造家屋の倒壊が発生するおそれがある区域です。

津波災害警戒区域 (平成30年3月福岡県公表)

津波災害警戒区域は、最大クラスの津波が発生した場合に、住民等の生命・身体に危害が生ずる恐れがあり、津波災害を防止するために「警戒避難体制を特に整備すべき区域」を地図上に示しています。

高潮浸水想定区域 (平成30年3月福岡県公表)

高潮浸水想定区域は、最大クラスの台風により高潮が発生した場合に想定される浸水範囲と浸水深を示したものです。高潮浸水想定区域の作成にあたっては、最悪の事態を想定し、既往最大規模の台風(1934年室戸台風、1959年伊勢湾台風など)を基本に、複数の台風のコースを設定してシミュレーションを行い、10m四方の各地点で一番浸水の深い数値を示しています。



防災マップの見方

土砂災害の危険がある場所

急傾斜地	土石流	地すべり
 傾斜度30°以上で高さ5m以上の急傾斜地を抽出しています。	 渓床勾配が3°以上(火山砂防地域では2°)の渓流を抽出しています。	 地形図や過去の災害履歴などから判断して地すべりが発生する可能性があり、人家や河川などに被害を生ずるおそれのあるところを抽出しています。

洪水浸水想定区域

河川のはん濫で浸水した場合に想定される水深

	0.5m未満
	0.5m以上 - 3.0m未満
	3.0m以上 - 5.0m未満
	5.0m以上 - 10.0m未満

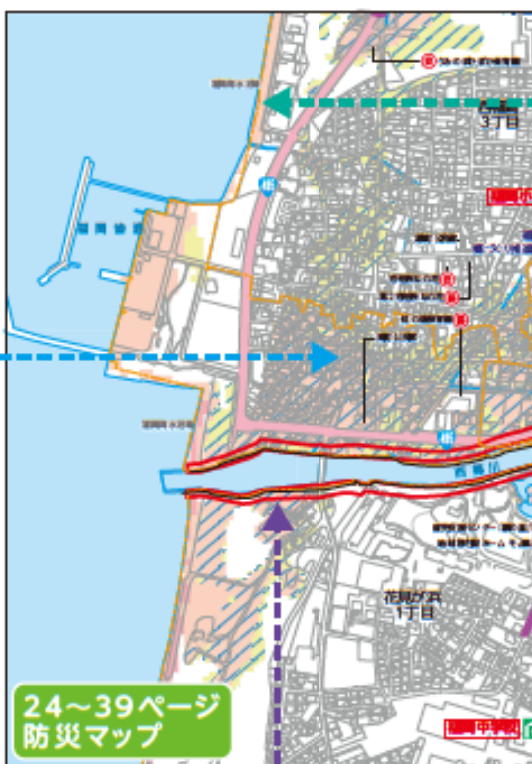
津波災害警戒区域

津波が建造物などに衝突した場合に想定される水位

	0.5m未満
	0.5m以上 - 3.0m未満
	3.0m以上 - 5.0m未満
	5.0m以上 - 10.0m未満

主要凡例

- 指定一般避難所
- 指定緊急避難場所
- 広域避難場所
- 指定福祉避難所
- 災害危険区域の要配慮者利用施設
- 郷づくり協議会事務所
- 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
- アンダーパス
- 都市公園



家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)

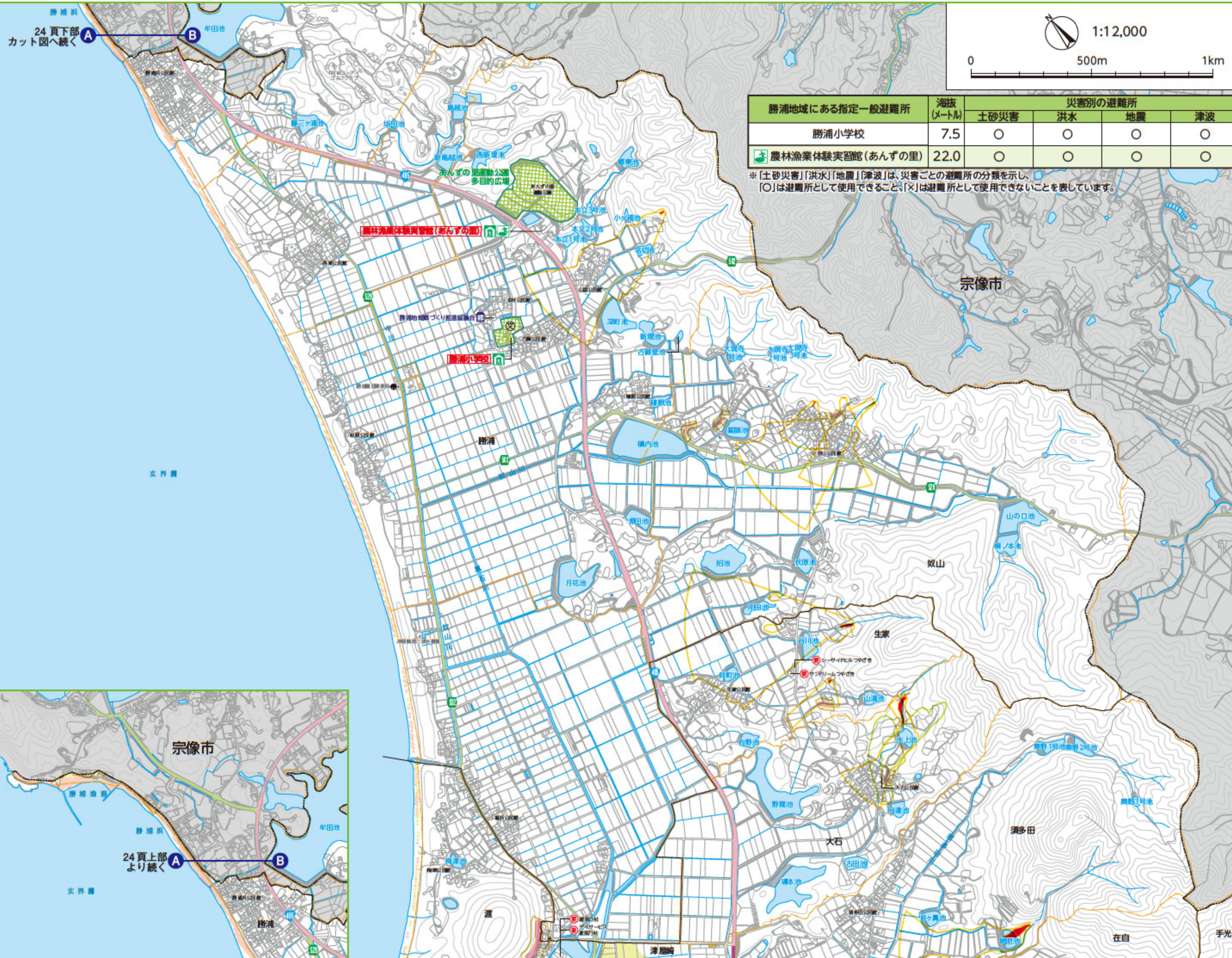
河川の激しい流れにより、河岸が削られ、家屋の倒壊や流出するおそれがあるため、立ち退き避難が特に必要な区域

	家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)
--	--------------------

高潮浸水想定区域

高潮で浸水した場合に想定される水深

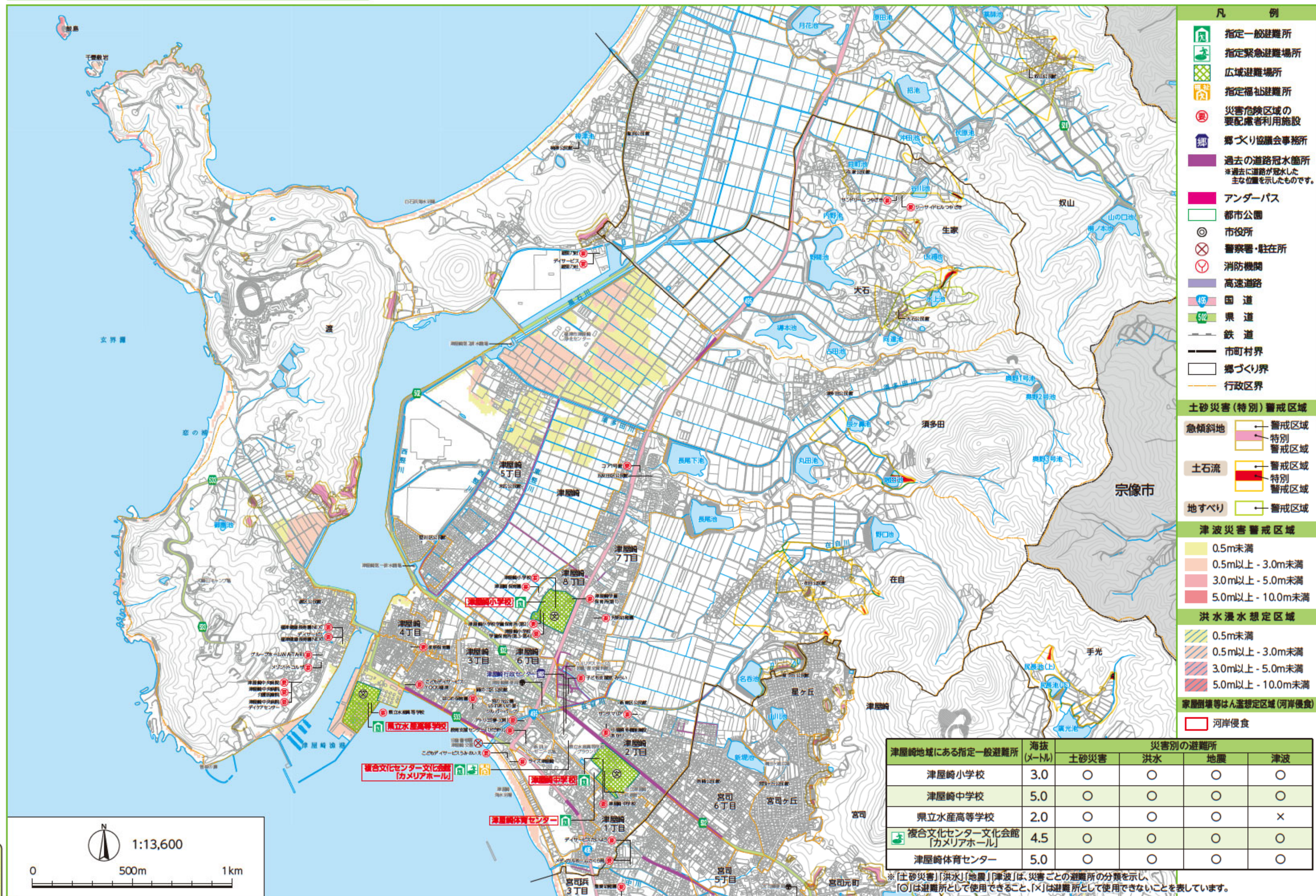
	0.5m未満
	0.5m以上 - 3.0m未満
	3.0m以上 - 5.0m未満
	5.0m以上 - 10.0m未満

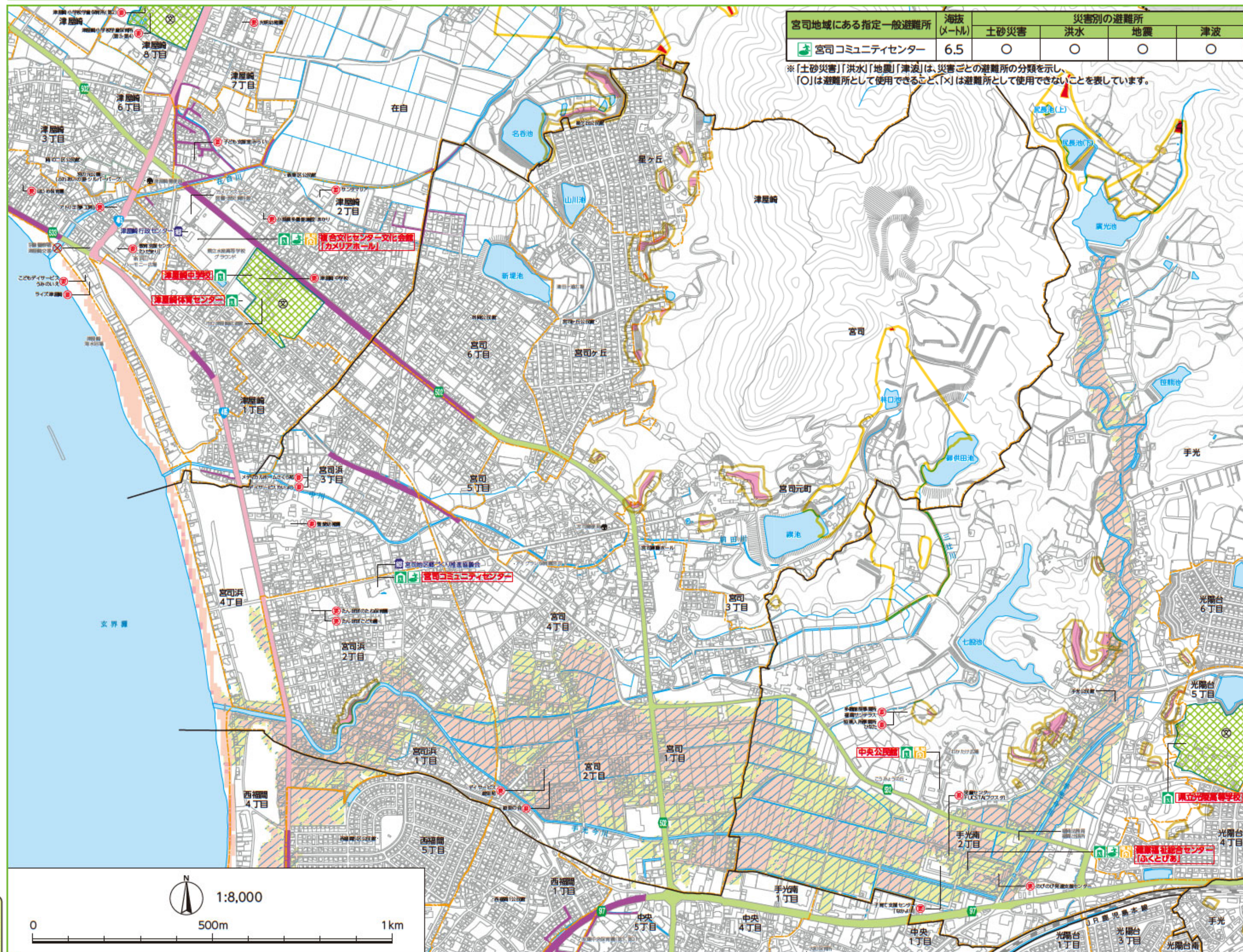


勝浦地域にある指定一般避難所	海拔 (メートル)	災害別の避難所			
		土砂災害	洪水	地震	津波
勝浦小学校	7.5	○	○	○	○
農林漁業体験実習館(あんの里)	22.0	○	○	○	○

※「土砂災害」「洪水」「地震」「津波」は、災害ごとの避難所の分類を示し、「○」は避難所として使用できること、「×」は避難所として使用できないことを表しています。

- ### 凡 例
- 指定一般避難所
 - 指定緊急避難場所
 - 広域避難場所
 - 指定福祉避難所
 - 災害危険区域の要配慮者利用施設
 - 郷づくり協議会事務所
 - 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
 - アンダーパス
 - 都市公園
 - 市役所
 - 警察署・駐在所
 - 消防機関
 - 高速道路
 - 国道
 - 県道
 - 鉄道
 - 市町村界
 - 郷づくり界
 - 行政区界
- ### 土砂災害(特別)警戒区域
- 急傾斜地
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
 - 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
 - 地すべり
 - 警戒区域
- ### 津波災害警戒区域
- 0.5m未満
 - 0.5m以上 - 3.0m未満
 - 3.0m以上 - 5.0m未満
 - 5.0m以上 - 10.0m未満
- ### 洪水浸水想定区域
- 0.5m未満
 - 0.5m以上 - 3.0m未満
 - 3.0m以上 - 5.0m未満
 - 5.0m以上 - 10.0m未満
- ### 家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)
- 河岸侵食





宮司地域にある指定一般避難所	海拔 (メートル)	災害別の避難所			
		土砂災害	洪水	地震	津波
宮司コミュニティセンター	6.5	○	○	○	○

※「土砂災害」「洪水」「地震」「津波」は、災害ごとの避難所の分類を示し、「○」は避難所として使用できること、「×」は避難所として使用できないことを表しています。

凡 例

- 指定一般避難所
- 指定緊急避難場所
- 広域避難場所
- 指定福祉避難所
- 災害危険区域の要配慮者利用施設
- 郷づくり協議会事務所
- 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
- アンダーパス
- 都市公園
- 市役所
- 警察署・駐在所
- 消防機関
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 市町村界
- 郷づくり界
- 行政区界

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域

津波災害警戒区域

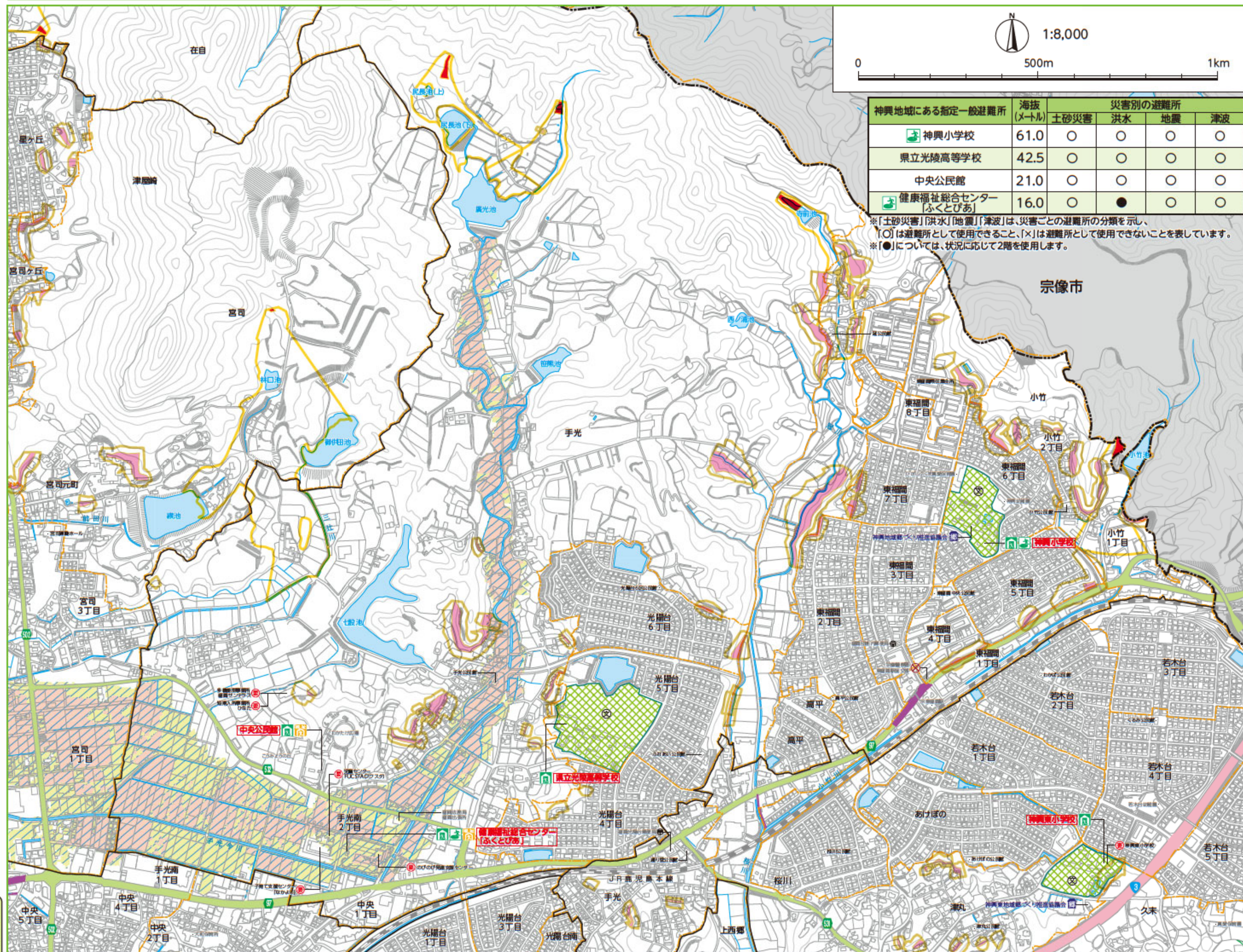
- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

洪水浸水想定区域

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)

- 河岸侵食



神興地域にある指定一般避難所	海拔 (メートル)	災害別の避難所			
		土砂災害	洪水	地震	津波
神興小学校	61.0	○	○	○	○
県立光陵高等学校	42.5	○	○	○	○
中央公民館	21.0	○	○	○	○
健康福祉総合センター 「ふくとびあ」	16.0	○	●	○	○

※「土砂災害」「洪水」「地震」「津波」は、災害ごとの避難所の分類を示し、「○」は避難所として使用できること、「×」は避難所として使用できないことを表しています。
※「●」については、状況に応じて2階を使用します。

凡 例

- 指定一般避難所
- 指定緊急避難場所
- 広域避難場所
- 指定福祉避難所
- 災害危険区域の要配慮者利用施設
- 郷づくり協議会事務所
- 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
- アンダーパス
- 都市公園
- 市役所
- 警察署・駐在所
- 消防機関
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 市町村界
- 郷づくり界
- 行政区界

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域

津波災害警戒区域

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

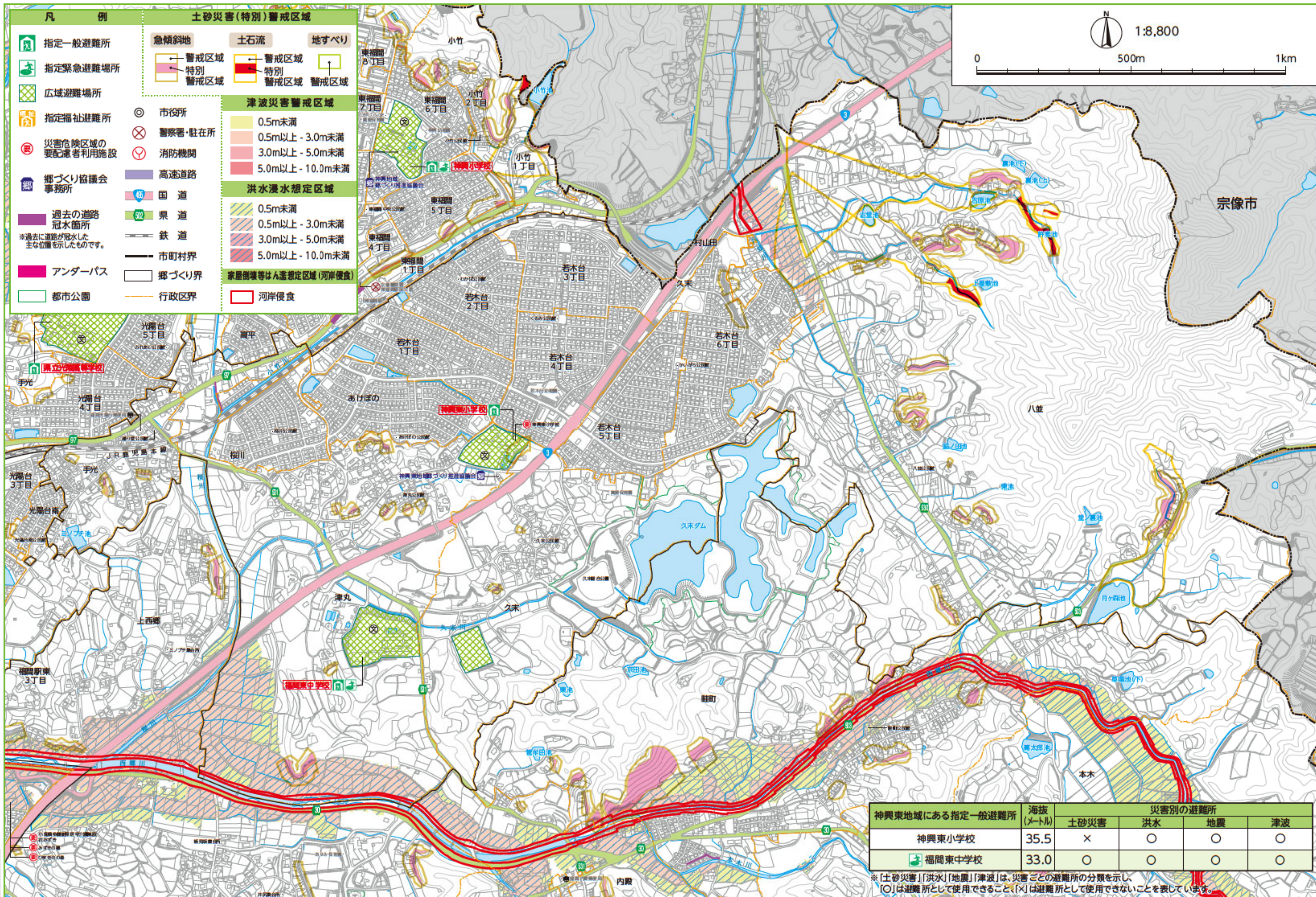
洪水浸水想定区域

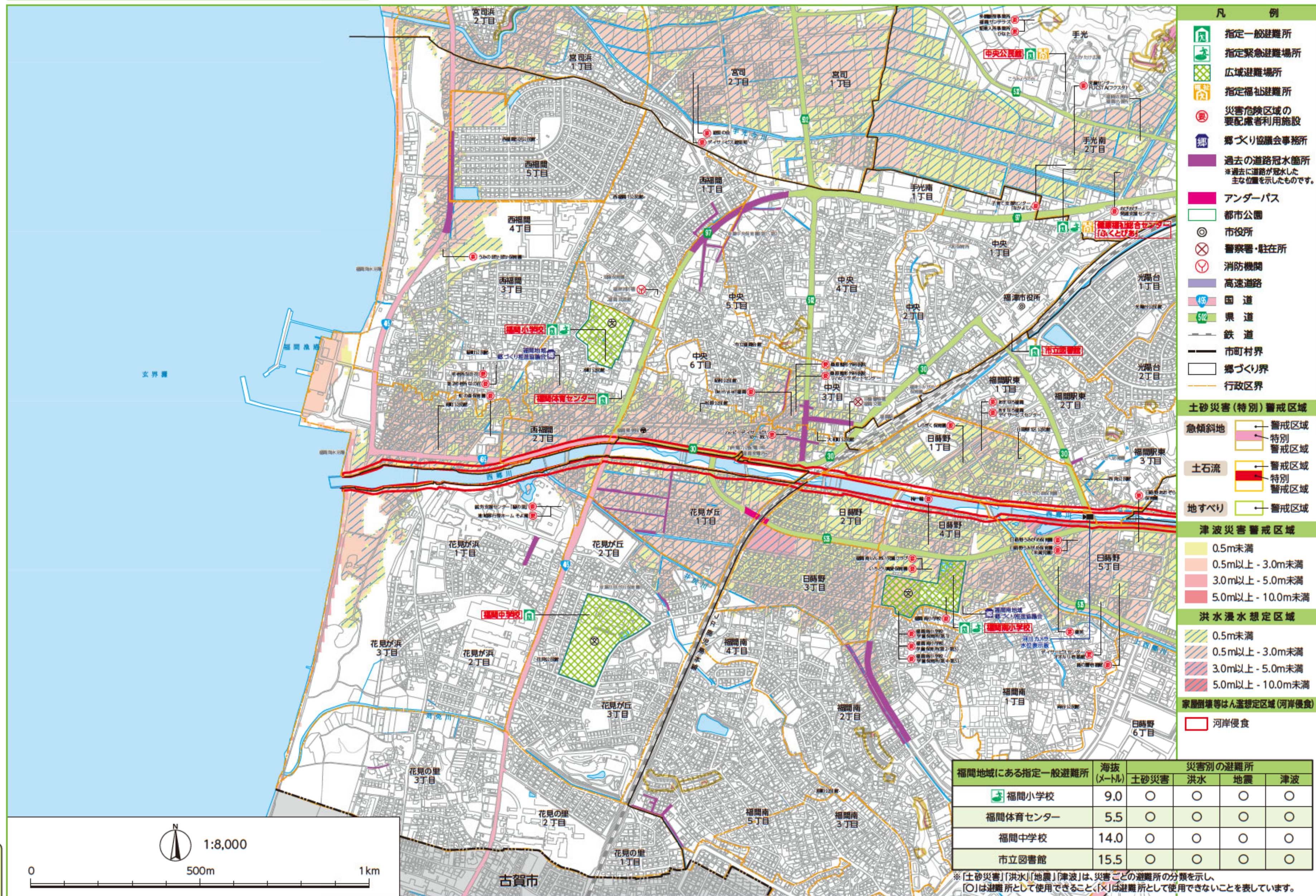
- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)

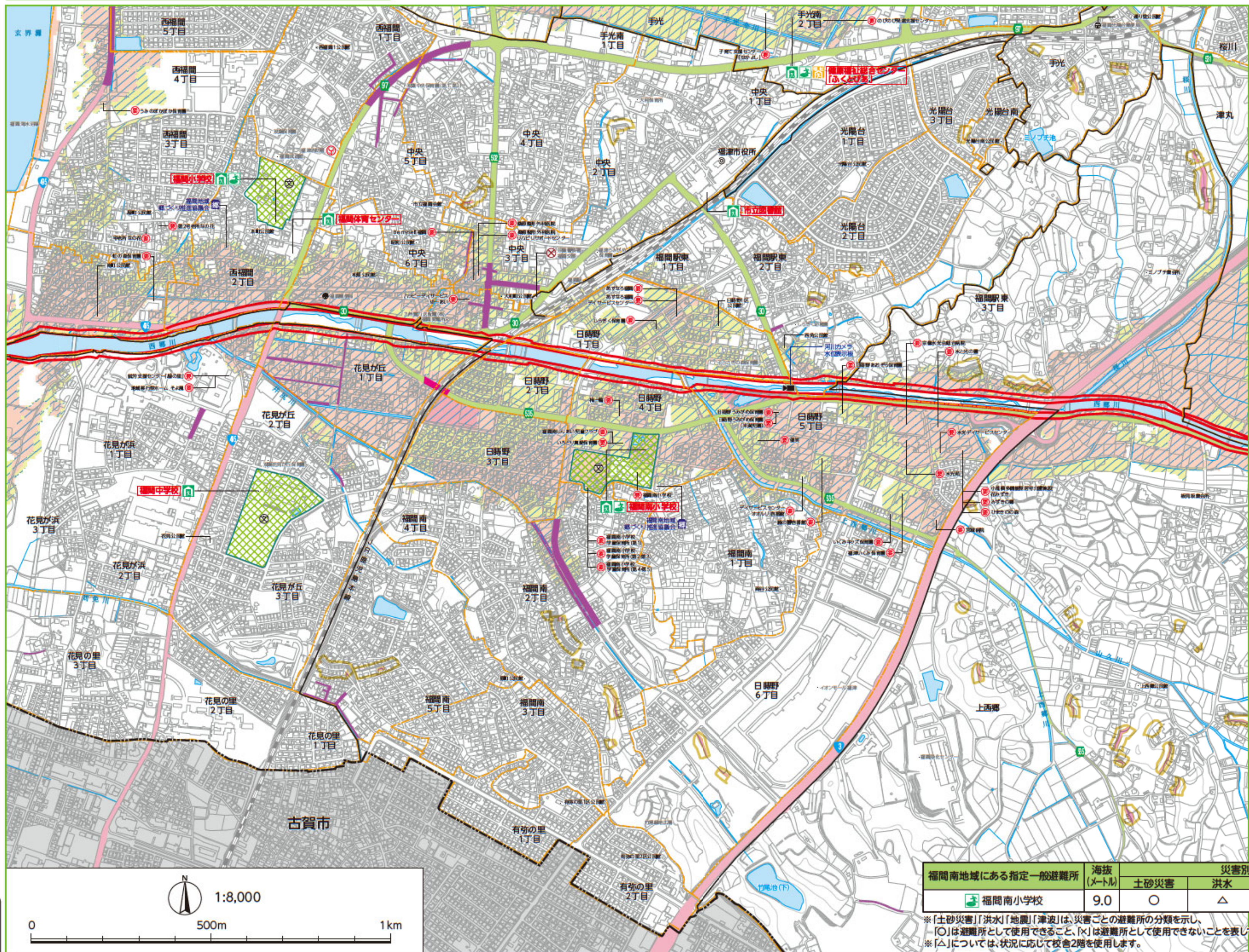
- 河岸侵食

防災マップ 神興東地域





防災マップ 福岡南地域



凡 例

- 指定一般避難所
- 指定緊急避難場所
- 広域避難場所
- 指定福祉避難所
- 災害危険区域の要配慮者利用施設
- 郷づくり協議会事務所
- 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
- アンダーパス
- 都市公園
- 市役所
- 警察署・駐在所
- 消防機関
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 市町村界
- 郷づくり界
- 行政区界

土砂災害(特別)警戒区域

- 急傾斜地
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 土石流
 - 警戒区域
 - 特別警戒区域
- 地すべり
 - 警戒区域

津波災害警戒区域

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

洪水浸水想定区域

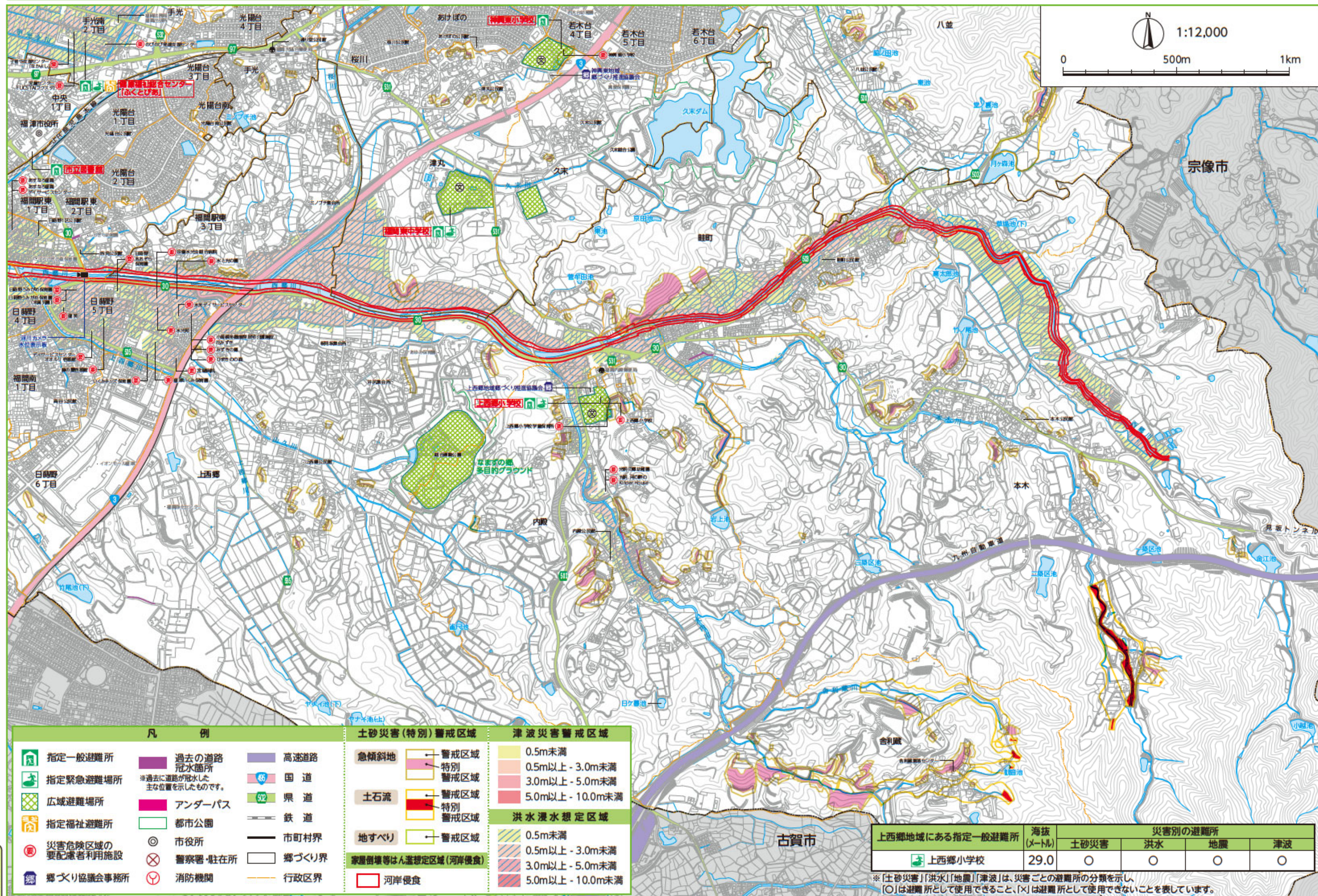
- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満

家屋倒壊等はん濫想定区域(河岸侵食)

- 河岸侵食

福岡南地域にある指定一般避難所	海拔 (メートル)	災害別の避難所			
		土砂災害	洪水	地震	津波
福岡南小学校	9.0	○	△	○	○

※「土砂災害」「洪水」「地震」「津波」は、災害ごとの避難所の分類を示し、「○」は避難所として使用できること、「△」は避難所として使用できないことを表しています。
※「△」については、状況に応じて校舎2階を使用します。



凡 例

- 指定一般避難所
- 指定緊急避難場所
- 広域避難場所
- 指定福祉避難所
- 災害危険区域の要配慮者利用施設
- 郷づくり協議会事務所
- 過去の道路冠水箇所
※過去に道路が冠水した主な位置を示したものです。
- アンダーパス
- 都市公園
- 市役所
- 警察署・駐在所
- 消防機関
- 高速道路
- 国道
- 県道
- 鉄道
- 市町村界
- 郷づくり界
- 行政区界

高潮浸水想定区域

- 0.5m未満
- 0.5m以上 - 3.0m未満
- 3.0m以上 - 5.0m未満
- 5.0m以上 - 10.0m未満



1:16,000

0 500m



防災すまっぽん!!

自治体初!!

スマホに防災情報を集めました。
家族みんなで持ち運びできる防災マップです。
スマホでぜひ読んでみてください。



防災すまっぽん!
こちらのQRコード
からどうぞ。

<https://smappon.jp/x8qng9xt>

こんな問題を解消

この地域の危ない
ところどこだっけ?
どうやって調べればいいのか?



(イメージ図)

みんなの不安の解消

災害への備えが、家族と共有できて安心。



福岡県防災アプリ

利用
無料

簡単
操作



\\ 防災情報は生活必需品!ぜひ登録を! //



緊急時の連絡先

消防・救急は

119番

警察は

110番

海の事件・事故は

118番

	名称	TEL		名称	TEL
行政関係	福津市役所(代表)	0940-42-1111	ライフ ライン	都市ガスのことは 西部ガスお客さまサービスセンター	0570-000-312
消防	宗像地区消防本部 福津消防署	0940-43-0521		JRのことは 福岡駅	080-7512-1781
警察	宗像警察署	0940-36-0110		JRのことは 東福岡駅	080-7510-2678
ライフ ライン	国道のことは 国交省八幡維持出張所	093-631-3338	救急告知 医療機関	バスのことは 西鉄お客様センター	092-303-3333
	県道のことは 県土整備事務所宗像支所	0940-36-2005		宗像医師会病院 (地域医療支援病院)	0940-37-1188
	電気のことは 九州電力 福岡営業所	0120-426-305		宗像水光会総合病院 (災害拠点病院)	0940-34-3111
	上水道のことは 宗像地区水道管理センター	0940-62-0975		蜂須賀病院	0940-36-3636
	下水道のことは 福津市下水道課	0940-62-5069	災害情報 の確認	福岡東医療センター (災害拠点病院・救命救急センター)	092-943-2331
				宗像地区消防本部テレホンサービス	092-791-1679
				防災行政無線テレホンサービス	050-5536-1388

発行:福津市 制作:株式会社ゼンリン福岡営業所 作成:令和6年2月

「この地図は、福津市長の承認を得て福津市所管の測量成果福津市都市計画基本図(1/2,500)を使用したものである。(承認番号 3福都第1306号)」[QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です][JIS Z 8201 広域避難場所 避難所(建物)]

(禁無断複製)©2024 ZENRIN CO., LTD.



総務部 防災安全課

〒811-3293 福津市中央1丁目1番1号

☎ 0940-43-8107(直通)

E-mail: anzen@city.fukutsu.lg.jp

URL <https://www.city.fukutsu.lg.jp/>

防災マップの音声データは、
市公式ホームページで聞く
ことができます。

